

No. 1778 長期継続特殊前兆

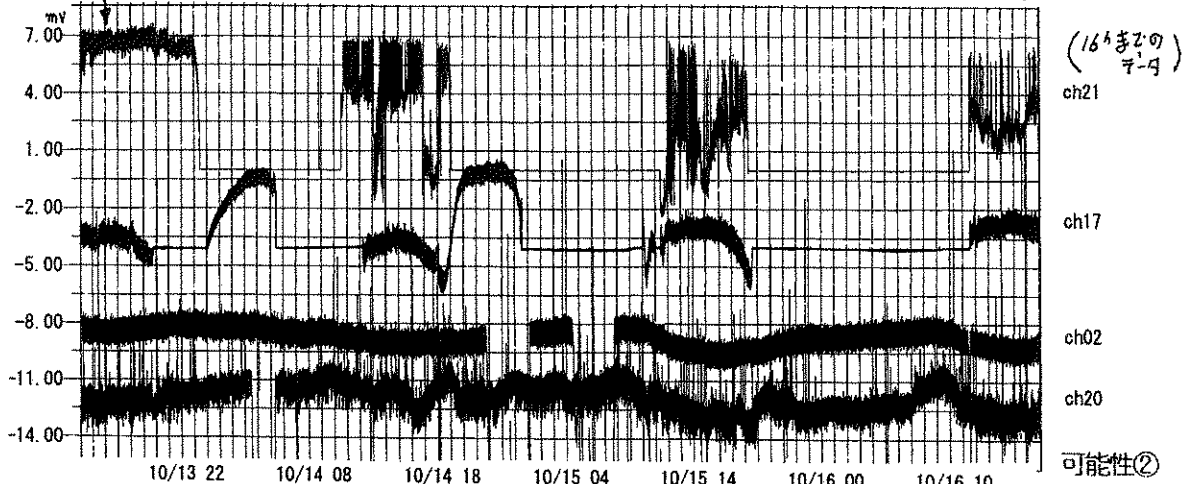
原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆 終息認識後 複数前兆出現 2つの可能性

極大9/30.0 → 静穏化?10/13.6 → 10月18日±3

10/13 配信の情報で、9/21から継続したCH02完全糸状特異が、10/11に終息し、最後に残っていた最終前兆CH21特異も10/13の午後03時頃より完全静穏基線となったことから、明確な最終極大認識10/30に対して静穏期に入った可能性を報告致しました。前兆が再出現しない場合は、10月18日発生の可能性を報告。



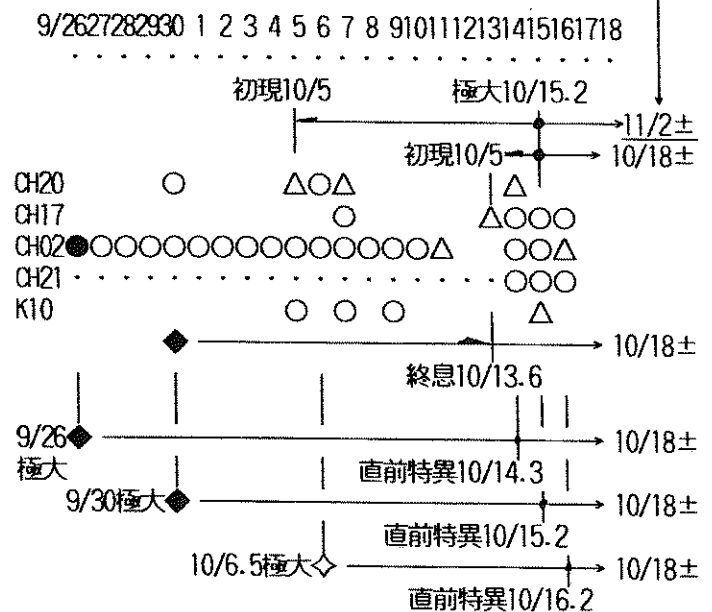
10月13日午後03時頃より全前兆が静穏化し、全て静穏基線を記録しましたが、その継続時間は3~4時間で、上波形のとおり、CH17に10/7以来となる短時間の糸状特異が出現、その後は上波形のとおり、最近では無かった観測装置にも特異状態が断続的に出現しました。現在継続前兆はCH21特異のみ。

この観測事実を基に様々な可能性を考察すると共に、その後の変化を観測していました。検討の結果、考えられる可能性は二つとなりました。

(10/7の観測情報No.2830に報告したとおり、10/6に小ピークが認識でき、単独極大か、9/30の副極大か、継続前兆かの可能性を考えました。)

◆可能性①は、9/30極大に対し10/13に静穏期に入った可能性で、その後に出現した前兆は、右図下側記載のとおり、 $T_{map}:T_{pa}=6:1$  経験則で出現する直前特異である可能性です。この場合は10月18日発生を全て示します。また右上側に記したとおり、10/5初現~10/15極大の考え方も10月18日を示します。この場合、CH21特異は10月17日夜まで継続の可能性有。

◆可能性②は、第18ステージが10月16日±を示していたことから、10月15日に次の極大が出現。右図のとおりCH17とK10特異が出現した10/5



◆推定領域：右図点線領域内付近=大枠推定領域  
太線領域内付近=可能性考え易い推定領域  
(火山帯近傍地殻地震前兆が関連がある場合には、ある程度火山帯に近い領域の可能性が示唆される)

◆推定規模：M7.8±0.5

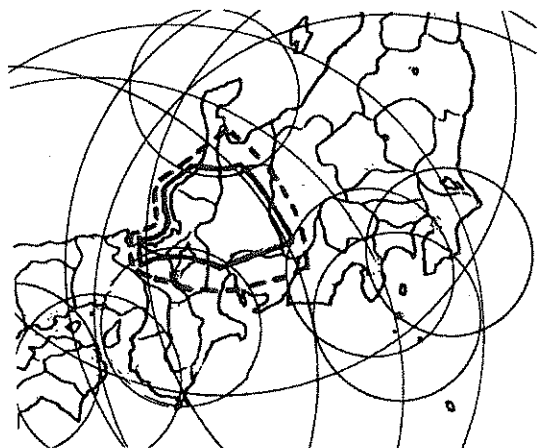
◆推定時期：可能性①10月18日 (or 19日)  
可能性②11月 2日±3

※10/18段階で前兆継続の場合は可能性②

◇推定地震種：震源の深さ30km以浅の陸域  
日本列島地殻地震

◇推定発生時刻：午前9時±1 (又は午後6時±3)

C) Copyright 2016 YSB0八ヶ岳南麓天文台



少なくとも10月18日段階で前兆が継続していた場合は、可能性②となります。